

連載

欧州から（２）ケルン大学電子音響音楽コンサートシリーズ

Hiromi J. Ishii
City University UK
Dept. of Music

概要

この連載記事は主に欧州における現在の電子音響音楽に関する様々な活動や問題を電子音響音楽と一般社会、電子音響音楽と教育、電子音響音楽と現代音楽界などの観点からレポートしていく。

This article-series reports today's issues and activities associated to electroacoustic music in Europe from the viewpoints of "electroacoustic music and general society" "electroacoustic music and education" and "electroacoustic music and contemporary music society".

1. ケルン大学音楽学研究所の活動

ケルン大学音楽学研究所では *Komposition und Musikwissenschaft im Dialog*（対話による作曲と音楽学）と名付けられたコンサートシリーズが主催されている。現代音楽と電子（音響）音楽の研究者として知られるクリストフ・フォン・ブルムレーダー教授率いる同大学スタッフ（リーダー＝マルクス・エルベ博士）によるこのシリーズは、初回1998年2月13日シュトックハウゼン自身の音響監督による *OKTOPHONIE* をもってスタートし、以来年6-8回のペースで現代音楽コンサートが毎年組まれている（入場無料）。

このうち *Raum-Musik* シリーズは、特にアコスマティック作品に焦点を絞ったもので、『電子音響音楽の主要な作品の上演の為のコンサートシリーズ』という主旨が掲げられており、過去にはシュトックハウゼン始め、電子音響音楽界の主だった作曲家達のポートレートコンサートや講演が組まれ、作曲家自身が音響監督を行っているものも多い。

過去招待された作曲家を辿ってみると、アンリ・ブスール、フランソワ・ベル、ジャン-クロード・リセ、ルトガー・ブリュマー、ミシェル・シオン、フランシス・ドモン、デニス・スモーリー、ダニエル・テルツジ、ヴィルフリート・イエッチ、ハンス・トゥチュク、サイモン・エマーソン、フロー・メネゼス、ジョンティ・ハリソン、アネット・ヴァンデ・ゴルネのほか、現在形で活躍し

ている作曲家達の名前が連なっており、電子音響音楽の世界で今まさに何が起きているのかを音楽学者の視点で捉え、聴衆に向かって発信しようと、作曲家達の活動と動きを共にしているのが分かる。

2. 今年度のシリーズから

2008秋-09夏の今年度は GRM 五十周年コンサート（音響監督はベル）及びデニス・スモーリー、ハンス・トゥチュク、ホレイシオ・ヴァジョーネ、フランソワ・ベル、そしてヴィルフリート・イエッチの5ポートレート・コンサートと講演が行われた。ここではその内の最近の二つ、ベルとイエッチのコンサートについて触れておこう。

6月26日に行われたベルのコンサートでは、

I. *Petite polyphonie au jardin* (1974/ 2008)

II. *Érosphère* (1978-80; rev. 2009) (三部作)

の二作品が演奏された。ベルによるとオリジナルは当時新しく編成されたスピーカーアンサンブル“アコスモニウム”の為に作曲された。それを今回マルチチャンネル作品として改作したそうで、この日のコンサートでは8チャンネル（以下 ch）が使用された。ベル独特の透明感のある高音が美しくマルチチャンネル空間から発せられ、確かに「ステレオによる四角形空間¹」という元々のコンセプトを8 ch 音響空間²に注意深く置き換えた事が分かる。アコスモニウムの考案者であるベルが8 ch に自作を改作したということは一体何を意味するのだろうか。そんなことを考えながらもこの高齢の小柄な作曲家が今だ音響実験を試みていることに尊敬の念を覚え、またその創作意欲に勇気づけられる思いだった。

7月24日のイエッチのコンサートでは、前半は彼の半生に及ぶガムラン音楽への興味を反映した“バリ・シリーズ”、後半は現在の活動の中心となるヴィジュアル・ミュージック作品（以下 VM）が組まれ、またコンサー

¹ アコスモニウムは、多スピーカーを用いるが基本的に正面からのサウンドを重視し、延長されたステレオと考えられる。

² オクトフォニーは基本的に円形に設置された8chからの均質のサウンドを要求する。

トに先立ちエスノ・エレクトロアコースティック音楽という視点でのガムラン音響分析とその応用、独自の空間処理プログラムについて講演が組まれた。プログラムは下記の通り。

I. Bali-Zyklus

Paysage G (1980/81) 4ch

Trance oder Lamento di Bali (2003) 8ch

Dream of B (2007) 8ch

II. Visual Music

Kyotobells (2005/06)

Widerschein des Lichtes (2006)

Sphärenklänge (2007)

Makyo (2007/09)

特にコンサートでは4 ch による VM 作品群が注目を集めた。これらはもともと自立した8 ch アコスマティック作品であるが、その後自身の手でコンピュータ処理による映像が付加された。「ステレオでは音楽の大事な要素である音響空間が潰れてしまう。緻密な映像とバランスを取るためにも音楽はせめて4 ch の空間は必要」という主張通り、映像と同等に存在感のある響きの空間を作り出していた。

こういったコンサートの機会ごとに、アコスマティックがすでに成熟した音響空間芸術の表現の域に達し始めていることを改めて実感させられるし、また聴衆も音楽が始まると途端に水を打ったように静まり集中し、聴き方を心得ているのが分かる。

3. 来期の予定と出版物

同シリーズの来期の予定は、アンリ・プスール・メモリアル(10月23日)、ジョナサン・ハーヴィ(11月6日)、アケ・パルメルド(12月4日)、フランシス・ドモン(2010年1月8日)、シュトックハウゼン2010(1月27-30日)となっている。この時期欧州を訪れる方には是非ケルン大学のコンサートにも立ち寄ることをお勧めしたい。音楽祭の派手さは無いが、質の良いコンサートシリーズであり、作曲家との質疑応答も可能である。

なお、同研究所はSignal aus Kölnという出版物シリーズを刊行している。内容は下記の通り。

Band 1 Stockhausen 70 Das Programmbuch Köln 1998

Band 2 Imke Misch “Zur Kompositionstechnik Karlheinz Stockhausens: GRUPPEN für 3 Orchester

Band 3 Komposition und Musikwissenschaft im Dialog (以下 Dialog と略す) I: Fritsch, Höller, Lachenmann, Schnebel, Stockhausen, Vetter

Band 4 Internationales Stockhausen-Symposium 1998

Band 5 Dialog II: Henri Pousseur

Band 6 Dialog III: Kagel, Koenig, Menezes, Pagh/Paan, Shinohara

Band 7 Kompositorische Station des 20 Jahrhunderts Debussy, Webern, Messiaen, Boulez, Cage, Ligeti, Stockhausen, Höller, Bayle

Band 8 Dialog IV: François Bayle

Band 9 Herbert Henck: Klaviercluster

Band 10 Internationales Stockhausen-Symposium 2000: LICHT

Band 11 Dialog V: Brümmer, Eloy, Jentzsch, Pousseur, Rihm, Smalley, Teruggi, Tutschku

Band 12 Dialog VI: Anderson, Bayle, Brümmer, Dhomont, Fritsch, Harrison, Menezes, Parmegiani, Pousseur, Risset, Smalley, Teruggi, Terzakis, Tutschku

4. 著者プロフィール

石井 紘美 (ヒロミ・イエンチ・イシイ)

博士 PhD (電子音響音楽作曲/音響美学)。DegeM、英国 SAN 会員。東京出身。武蔵野音楽大学研究員を経て音響技術専門学校、尚美大学講師ののち、98 年よりドレスデン音楽大学上級課程にてヴィルフリート・イエンチに電子音響音楽を師事。Konzert Examen (演奏家資格試験) 合格後、2001 年より ORS 英国大学長副学長協会奨学金を得て、英国シティ大学にてサイモン・エマーソン、デニス・スモーリーの指導のもと『日本伝統音楽との関係における電子音響音楽作曲』のテーマで博士研究。CYNETart、フロリダ電子音響音楽祭、英国 SAN EXPO966、北京 CEMC、ベルギー Musiques & Recherches 他様々な音楽祭より招待や委嘱を受け、また作品が選出され、西ドイツ放送、中部ドイツ放送、ベルリン放送、またベルギー、ポーランドなどでも作品が紹介されている。2006 年 ZKM ゲスト・コンポーザー。現在ケルン郊外に在住、Visual Music のキューレーターとして活動、これまでに CYNETart、ZKM、ベルリン工科大学、エッセン芸術大学、ドレスデン芸術協会にてプレゼンテーションを成功させている。2009 年 ISCM のサポートによりヴェネズエラ公演、またポルトガル Musica Viva 2009 からも招待されている。

Discography:

Portrait CD “Wind Way” WERGO ARTS 8112 2, Schott Music & Media.

“Dreaming Stones” on DEGEM CD05 Imaginäre Landschaften, Cybele 960 205.